

# 北上支部だより

令和8年6月1日発行  
(公社)岩手県看護協会 北上支部

## ■看護支部研修■

北上済生会病院 松本恵子

令和7年11月12日 岩手県立中部病院感染管理認定看護師 高橋睦氏より、医療感染症の現場や標準予防策の重要性、感染経路予防策についてご講義いただきました。会場22名、オンライン20名の参加があり、皆さんの関心度が高いことが分かりました。講義の中で、病院は多様な病原体の宝庫と言われており、患者が集まる場所で、病原体が多く生息し感染症が発生しやすい環境にあるということです。免疫力の低下や注射・手術などの医療行為から患者は感染症にかかりやすく、重症感染症を発生し命に関わる事があり、感染リスクは確実に高まるということでした。効率よく感染を防ぐためには感染の連鎖を断ち切り、手指消毒の徹底が最も有効で个人防护服の適切な選択と着脱も大事だということを再学習しました。これらの事を常に意識しながら感染対策に努めていきたいと思いました。



## ■看護フォーラム■

町立西和賀さわうち病院 岩淵亜希子

令和8年4月25日「看護フォーラム」を開催し、北上地区の高校生 8名と、パネリストとして県立大学看護学部、花巻高等看護専門学校の学生、看護師(病棟勤務、手術室認定看護師、訪問ステーション勤務)、助産師、保健師の方々にご参加いただきました。

始めにパネリストの看護学生から、看護を志したきっかけや学生生活について、看護職からは日々の業務の中での学びや、職種ごとの業務内容など体験談を交えながらお話いただき、高校生はメモを取るなど熱心に耳を傾けていました。その後、高校生とパネリストを交えたグループに分かれ意見交換を行いました。高校生から「看護師になるために高校生のうちにやっておいた方がいい事はありますか」「進学する上で学校を選択するためにどのように情報を得ましたか」など多くの質問があり、パネリストから看護職のやりがいや進路決定するにあたっての助言がありました。高校生からは「看護の仕事内容について詳しく知ることができ、今まで以上に興味を持つことが出来た」「看護学生の話聞き、進路について考え方が以前より明確になった」等の感想が寄せられました。

看護の魅力について理解を深める機会となり、進路選択の支援につなげることができました。貴重な交流の場を通して看護の魅力ややりがいを知ってもらい、将来の看護を担う人材育成につなげていけるよう活動していきたいと気持ちを新たにしました。



## ■令和8年度北上支部研修案内■

“困った子”と呼ばれるあの子は、  
本当は“困っている子”かもしれません・・・

つらいのに頼れない子どもたちのために  
～親・学校・地域の大人ができること～



受援力：助けを求め、支え合う社会へ

### 第1部 基調講演



【講師プロフィール】

吉田 穂波(よしだ ほなみ)  
産婦人科医師、医学博士、公衆衛生学修士  
神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科教授。著書に、『つらいのに頼れないが消える本——受援力を身につける』(株式会社あさ出版)、『頼るスキル 頼られるスキル』(角川新書)ほか多数。4女2男の母。



### 第2部 パネルディスカッション



【テーマ】  
つらいのに頼れない子どもたちのために、  
私たちにできること

【日時】 令和8年9月5日(土) 10:30～12:30(10:00開場)

【会場】 日本現代詩歌文学館

【対象】 地域住民・保護者・保健・医療・福祉・教育関係者

【定員】 150名(先着順)

【参加費】 無料

昨今、不登校やいじめの増加や若者のメンタルヘルス不調など、子ども達が大きなストレスにさらされています。本シンポジウムは、看護職を始め、親、学校、地域でできることを考えたいと企画しました。

親や大人から「困った子」と呼ばれる子どもは、実は SOS を出すことができず「困っている子」であるという転換が必要ではないでしょうか。“なぜ子どもは SOS を出せないのか” 子どもの行動の背景にある苦しみを理解し、子どもが「助けて」と言える社会のあり方をみなさんと考えたいと思います。